

18日 土曜

エスティル

6:1 その夜、王は眠れなかったので、記録の書、年代記を持って来るように命じ、王の前でそれを読ませた。

6:2 その中に、入口を守っていた王のふたりの宦官ビグタナとテレシュが、アハシュエロス王を殺そうとしていることをモルデカイが報告した、と書かれてあるのが見つかった。

6:3 そこで王は尋ねた。「このために、栄誉とか昇進とか、何かモルデカイにしたか。」王に仕える若い者たちは答えた。「彼には何もしていません。」

6:4 王は言った。「庭にいるのはだれか。」ちょうど、ハマンが、モルデカイのために準備した柱に彼をかけることを王に上奏しようと、王宮の外庭にはいって来たところであった。

6:5 王に仕える若い者たちは彼に言った。
「今、庭に立っているのはハマンです。」王は言った。「ここに通せ。」

6:6 ハマンがはいって來たので、王は彼に言った。「王が栄誉を与える者には、どうしたらよかろう。」そのとき、ハマンは心のうちに思った。「王が栄誉を与える者は、私以外にだれがあろう。」

6:7 そこでハマンは王に言った。「王が栄誉を与える人たためには、

6:8 王が着ておられた王服を持って来させ、また、王の乗られた馬を、その頭に王冠をつけて引いて来させてください。

6:9 その王服と馬を、貴族である王の首長のひとりの手に渡し、王が栄誉を与える人に王服を着させ、その人を馬に乗せて、町の広場に導かせ、その前で『王が栄誉



Bible Reference
聖書の記述

を与える人はこのとおりである。』と、ふれさせてください。」

6:10 すると、王はハマンに言った。「あなたが言ったとおりに、すぐ王服と馬を取つて来て、王の門のところにすわっているユダヤ人モルデカイにそうしなさい。あなたの言ったことを一つもたがえてはならない。」

6:11 それで、ハマンは王服と馬を取つて来て、モルデカイに着せ、彼を馬に乗せて町の広場に導き、その前で「王が栄誉を与える人はこのとおりである。」と叫んだ。

6:12 それからモルデカイは王の門に戻ったが、ハマンは嘆いて、頭をおおい、急いで家に帰った。

6:13 そして、ハマンは自分の身に起こった一部始終を妻ゼレシュとすべての友人たちに話した。すると、彼の知恵のある者たちと、妻ゼレシュは彼に言った。「あなたはモルデカイに負けかけておいでですが、このモルデカイが、ユダヤ民族のひとりであるなら、あなたはもう彼に勝つことはできません。きっと、あなたは彼に負けるでしょう。」

6:14 彼らがまだハマンと話しているうちに、王の宦官たちがやって来て、ハマンを急がせ、エスティルの設けた宴会に連れて行つた。

主がどのように社会や歴史に介入なさるのかが、表されているのがこのエスティル記です。これを読んでわかるように、一見王や有力な家臣たちが全てを動かしているようですが、実は見えないとこで全能の主が働いて、そのみこころをなされるのです。

そこでは王が眠れないことも、栄誉を手に入れたと高ぶっている有力者の勝ち誇った計画も、主の御手の中にあるのです。

ただ、かつて自分の上げた功績に対して「栄誉とか昇進とか」もなかつたことに、不平不満を言わなかつた、信仰の人モルデカイのためには、主は良いもので報いてくださいました。主に信頼して、みこころと共に歩みましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

